

バルカーグループ

お問い合わせ先：日本バルカー工業株式会社
総務部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560
〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower24階
<http://www.valqua.co.jp>



VALQUA GROUP CSR Report 2017

Value
&
Quality

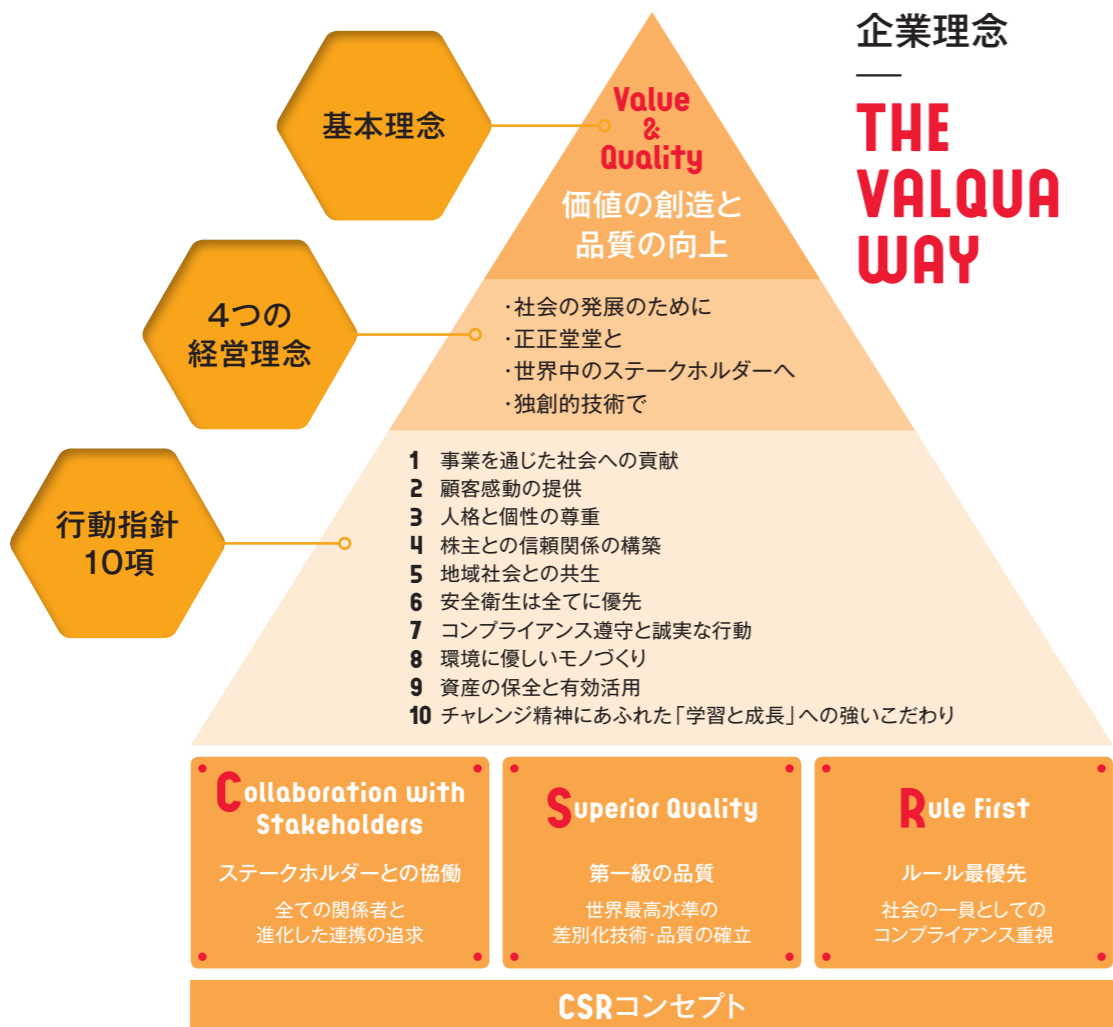


90th Anniversary since 1927

VALQUA GROUP CSR Report 2017

CONTENTS

03	トップメッセージ	14	Human Resources	人権尊重／ダイバーシティ
06	バルカーと社会との関わり	15	Human Resources	人材育成
【 Feature 】				
08	創業90周年特集 バルカーグループ 90年間の歩み	16	SHE	SHE委員会
10	特集① 人材 人材ダイバーシティの推進	17	SHE	SHE基本方針
12	特集② ハード 社会へ、半導体業界へ貢献するバルカー製品	18	SHE	安全衛生推進活動
13	特集③ サービス ベトナム教育機関との協働	19	SHE	環境保全への取り組み
		20	Production	顧客満足への取り組み
		21	Production	サプライチェーンマネジメント
		22	Community	ボランティア活動
		23	Community	スポーツ支援／活動の推進
		24	Governance	コーポレートガバナンス／CSR 経営
		25	Governance	コンプライアンス／リスクマネジメント
		26	会社概要・ネットワーク	



TOP MESSAGE

新たな価値提供に 果敢にチャレンジします

バルカーグループならではの
CSR 活動の実践に向けて

本年1月、おかげさまで当社グループは創業90周年を迎えることができました。この間、さまざまな環境変化があり、企業に対するステークホルダーの目線もずいぶん変化してまいりました。事業を行い、利益を稼ぎ、税金を納めているだけでなく、「企業市民として社会への責任を果たす」ことが求められています。こうした時代背景のなか、企業として社会への責任を果たすのは当たり前のことであり、その先にあるもの、すなわち「社会の期待に応える」「時代の要請に応える」ことこそが当社グループが考えるCSRの原点です。お客様の問題とともに悩み、考え、新たな価値を提供し解決していくことで、「できることを、できる範囲でやる」のではなく、「ここまでやってくれるのか」「こんなこともできるのか」という、真の「顧客感動」につなげてまいりたいと考えております。

当社グループは今から遡ること85年前、1932年に、社名「Valqua」の由来ともなった「Value(価値) & Quality(品質)」をポリシーに掲げ、爾来、価値と品質のあくなき追求は現在も引き継がれ、さらなる進化を遂げております。この「Value & Quality(価値の創造と品質の向上)」を基本理念とし、従業員に理解し実践しやすくしたものが、企業理念「THE VALQUA WAY」です。これが当社グループのCSRの基盤となっており、そこから生まれたのが独自のCSRコンセプト、つまり「Collaboration with Stakeholders(ステークホルダーとの協働)」「Superior Quality(第一級の品質)」「Rule First(ルール最優先)」です。

当社グループのCSR活動とは特別なものではなく、日々の業務活動そのものなのです。



顧客価値の最大化を実現する「H&S 企業」のさらなる進化への挑戦

当社グループは、シールエンジニアリングのパイオニアとして、常に時代の変化と課題に応じた独自のソリューションをご提供してまいりました。

その90年の足跡をたどる中で、バルカーの独創的技術と先進的製品開発による価値提供の歴史は、多くのお客さま、そして関係者の皆さまの支えがあったことと、改めて感謝の思いを強くしております。

バルカーのシール製品と機能樹脂製品は国や産業の垣根なく、幅広い市場でお使いいただいております。それぞれの使い方におけるお客さまのさまざまなご要望に応じて進化してまいりました。産業のグローバル化と多様化の中で、改めてバルカーの使命の根幹に思いを馳せるとき、我々がご提供してきたものは、製品だけではない「機能」であり顧客価値そのものであったことに気づかされます。

その原点に立ち返り、第7次中期3カ年計画(NV・S7)では、「顧客価値の最大化に繋がるH&S企業への脱皮」を基本方針として、「質の高いハード(=製品)」の開発・製造・販売はもちろんのこと、お客さまの視点に立った「真に求められるS(=シールエンジニアリング・サービス)」の提供を通じて、お客さまと共に顧客価値の最大化を実現する「顧客感動型企業」を目指し、独自のサービス開発と提供にチャレンジしてまいりました。

すでにご紹介させていただいているシールトレーニングセンター (STC)に代表される技能訓練サービスは、その活動の地域と領域を着実に広げつつ、各国の公的機関との協業を通じて、国際的認知や各種認証を拡大しています。また、IoT、AI、ビッグデータといった最先端技術の動向にも機敏に対応し、バルカーならではのシールエンジニアリングとの融合により、革新的サービスの開発、提供も進めているところです。

当社グループは、この「H&S」の取り組みを通して、一切の供給者論理を排し、徹底したお客さま視点の下、企業理念の中核である「Value & Quality」を誠実に追求し続けてまいります。

多くの情報や技術があふれる中で、こうした前例のないチャレンジを顧客価値につなげ、お客さまと感動を共有していくことは、決して容易な道ではありません。しかしその道を選び正堂堂と歩むことこそが、パイオニアとしてのバルカーの使命だと確信しております。

これからも弛まぬ挑戦を続け、NV・S7で育んだ「H&S」の種を、次のNV・S8で確実に開花させ、飛躍的な成長を図ってまいります。創業100周年に向け、常に世界中のステークホルダーに寄り添い、さらなる期待と信頼をいただける最良のパートナーで有り続けよう、進化と変革を進めてまいります。

「バルカーパーソン」という概念

人員構成の約半分が海外人材である当社グループでは、グローバルに活躍できる人材育成に早期から取り組んでおり、そうしたなかで、国籍・性別・年齢などに捉われない「バルカーパーソン」という概念が自然発生的に存在しております。こうした言葉が、企業トップの提唱ではなくボトムアップで定着している事実が、今までの取り組みを如実に現しているものと思います。

グループ全従業員が、それぞれのバックグラウンドを認め合い、それを活かして自らの価値を高め、「自分ならではの取り組みを行うこと。これこそが、当社グループ行動指針の一つである『チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり』の実践であり、世界で競い合える「バルカーパーソン」として成長し続けることにほかなりません。そして、事業環境が世界規模で激しく変化する現在のよう状況において、企業が持続的に、グローバルに成長するための不可欠な要素であると考えております。

最後に

当社グループは、90年の歴史のなかで培ってきた「THE VALQUA WAY」の精神を基軸に、これからも「正堂堂と」、新たな価値創造に果敢にチャレンジし、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

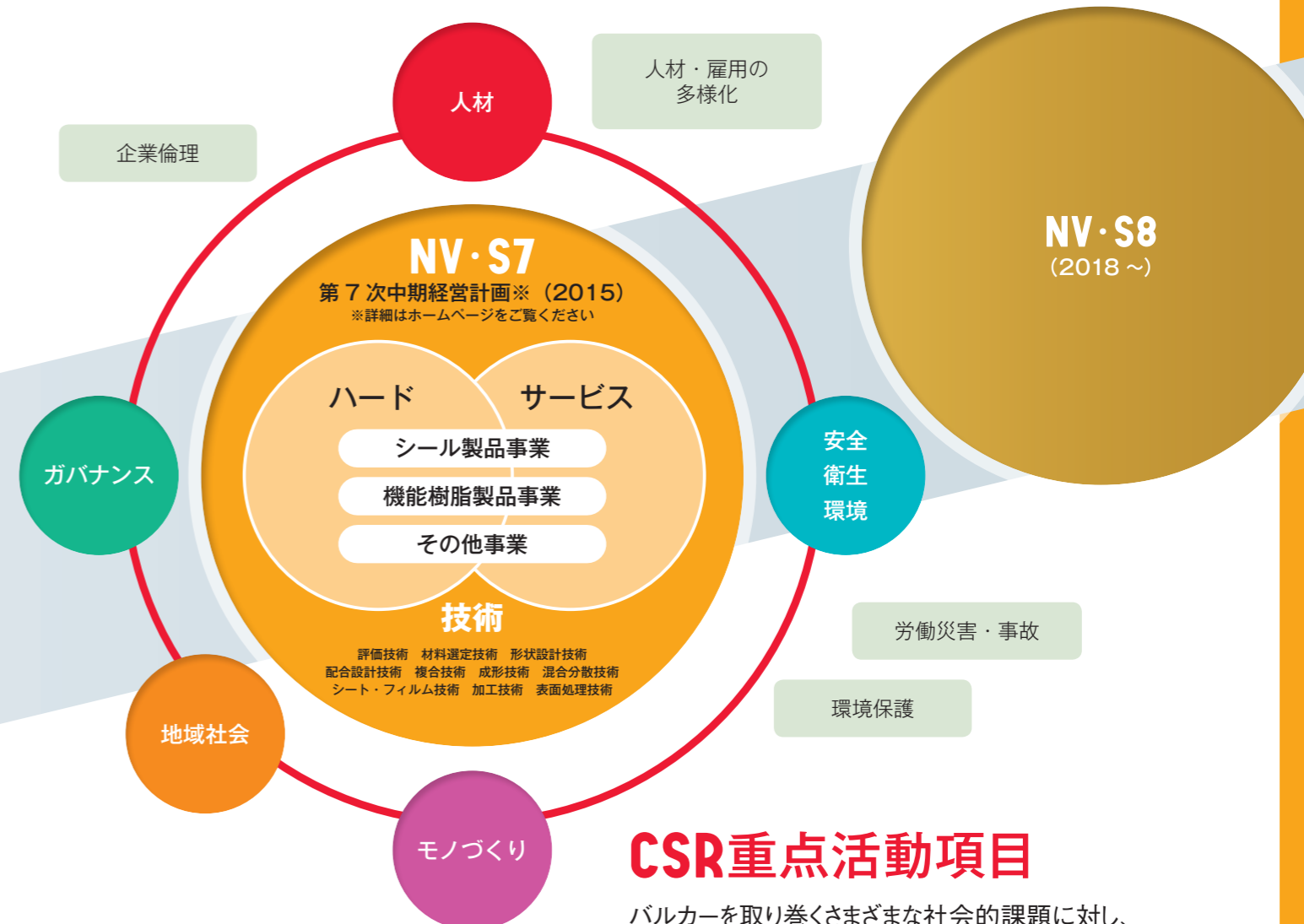
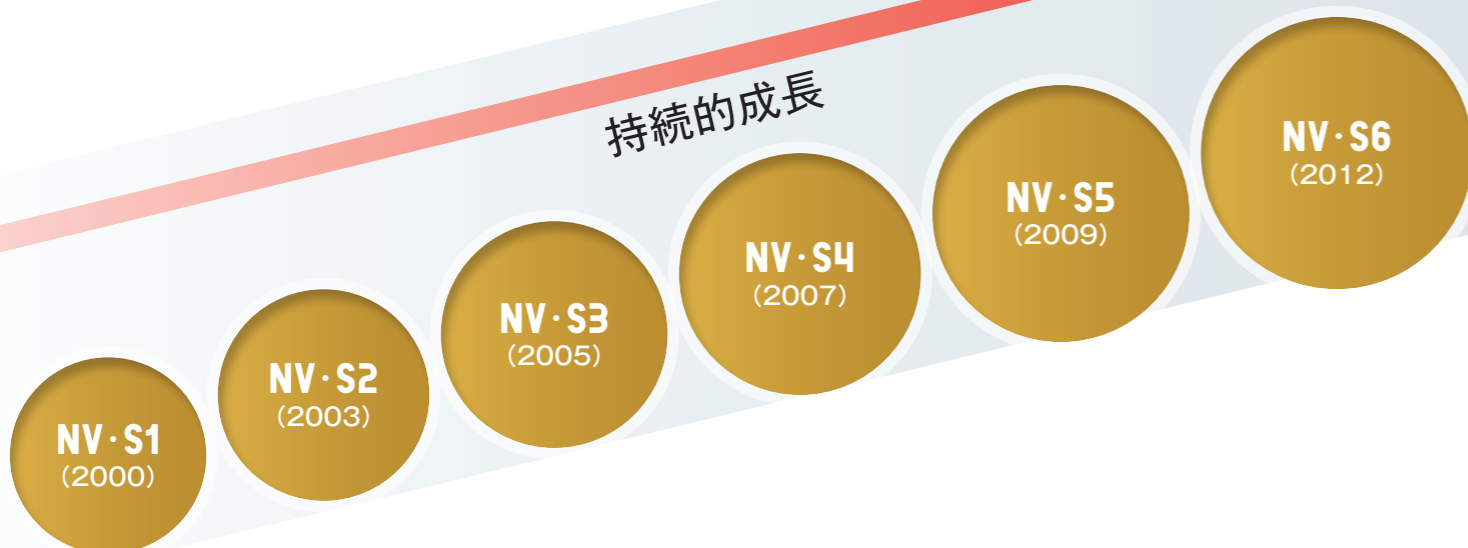
2017年12月
代表取締役社長 兼 CEO

龍澤利一

持続可能な社会のために

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、たゆみない成長を目指して日々挑戦を続けていきます。そして、創業以来培った技術とサービスで社会とお客さまの課題解決につながる価値を創造・提供し続け、持続可能な社会のために貢献してまいります。

持続的成長



CSR重点活動項目

バルカーを取り巻くさまざまな社会的課題に対し、5つの重点項目を決めて活動に取り組んでいます。

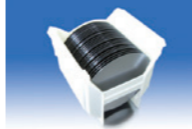
バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が
さまざまなところで活躍しています



ふっ素樹脂加工品
高い絶縁性能を活かし、
落雷の影響を無くす機器
や送電量をコントロール
する機器で用いられます。

変電所



再生シリコンウエハー
半導体製造装置のモニタリングなどで使用され
たシリコンウエハーを、独自のノウハウで
清浄度高く新品同様に再生・提供すること
で、環境負荷低減に貢献しています。



ライニングタンク
ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンク
で、半導体製造で使用される超高純度の薬液
の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。

半導体・液晶パネル工場



高機能エラストマー
不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施し
た製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな
環境を保っています。



ボンDEDゲートシール
高機能エラストマーと金属の一体型シールで
す。高いシール性を持ち、シリコンウエハー
の搬入口に用いられています。



- 宇宙ロケット・人工衛星**
メタル中空Oリング
宇宙空間においても漏れを防ぐ
ほどの高機能ガスケットで、ロ
ケットや人工衛星のほか、高
温・高圧・高真空が要求される
機器に使用されています。
- 工場・オフィス**
LED照明
低消費電力で長寿命が特徴の製
品です。豊富なラインアップ
で、幅広いニーズに対応可能で
あり、環境負荷の低減にも貢献
しています。
- 医療機関**
ふっ素樹脂熱収縮チューブ
医療機器や電子機器、電線など
に用いられているチューブで、
ふっ素樹脂を被覆することによ
り絶縁・耐熱・保護強度を付加さ
せています。写真提供：Zeus Inc.
- 自動車**
**オートマチックトランスミッション
(AT) 用ガスケット**
金属板に特殊紙を貼り付けた製
品で、AT作動に欠かせない油
圧コントロールバルブに使用し、
装置の機能向上を補完する
役割を担っています。
- 船舶**
グラウンドバックン
貫通軸周辺からの漏れを防ぐ製
品で、主に液体の流量をコント
ロールするバルブや回転ポンプ
で使われています。
- ジョイントシートガスケット**
幅広い液体に対応する性能を持
つ汎用ガスケットです。船舶・
プラントなどのほか、住宅設備
などあらゆるシーンで活躍して
います。

- 高機能シートガスケット**
従来の製品の性能を大きく上回
り、特に高温耐性が要求される
プラントで活躍しています。
- うず巻形ガスケット**
金属の補強をつけた製品で、高
温度・高圧力で運転されるプラ
ントの安全操業を支えています。

- 製鉄プラント**
回転軸シール (LFR SEAL®)
摺動性に優れたシール材で、各
種生産用機器の回転および摺動
部向けに開発されました。

- 化学プラント**
ライニングボールバルブ
化学薬品に強いふっ素樹脂を接
液部全面に採用し、幅広い種類
の流体の制御に活躍しています。

- ふっ素樹脂ライニング製品**
化学薬品に強い、表面が平滑である、
などのふっ素樹脂の特性を活かし、中
を流れる流体の純粋性を保っています。
- ふっ素樹脂ガスケット**
化学薬品に強い素材でできており、
配管や機器のつなぎ目から薬液やガ
スが漏れるのを防いでいます。

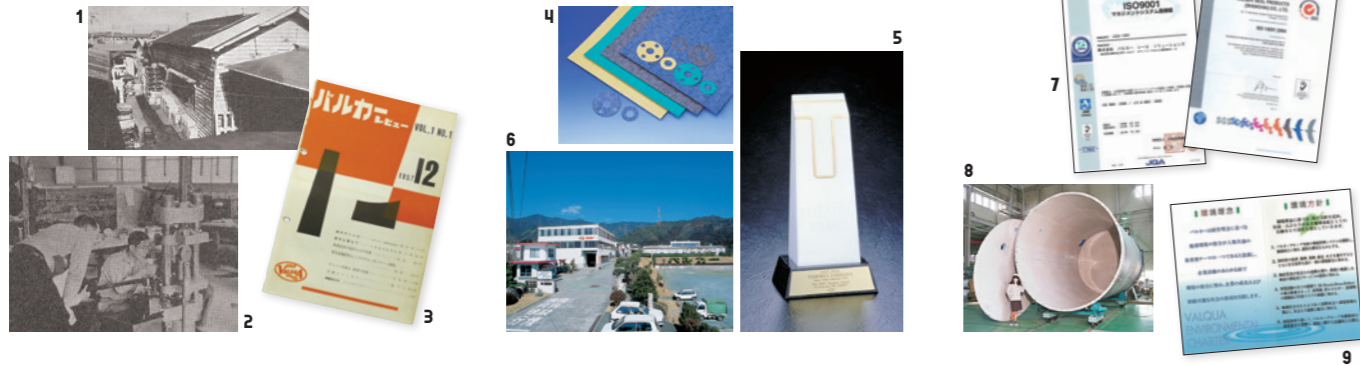
- 携帯電話基地局・自動車**
PTFE基板
PTFEの優れた電気特性と耐候
性の機能を活かした基板材料が
アンテナ機器周辺および自動運
転にも使用され、安全・高速・
大容量通信の実現に寄与してい
ます。
- 太陽光発電**
太陽光発電事業
九州バルカーの敷地内に設置さ
れたメガソーラーは、日々ク
リーンなエネルギーを生み出
し、地球環境の保全と地域への
貢献につなげています。
- 建設機械**
Oリング
動的シールの代表的な製品で、
用途に応じたゴム材料を使用す
ることにより幅広い産業からの
ニーズに対応しています。
- ピンダスト・スラストワッシャー**
ショベルカーなどのアームの可
動部に組み込まれ、ピンダスト
は土砂の侵入防止と内部封入グ
リースの流出防止、スラスト
ワッシャーはボスとプランケット
の隙間調整をしています。
- ポータブルメディア**
ふっ素樹脂テープ
高い絶縁性と優れた加工性を持
ち、通信機器の性能向上と小型
化に貢献しています。
- シールエンジニアリングサービス**
P13をご覧ください

- STC (シールトレーニングセンター)**
バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジー
をお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の
確実な作動につなげています。シール材の選定や適切
な使用方法についての座学と、現場の配管フランジを模
擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を
提供しています。
- H&Sデモカー**
新たに開発・取り扱
いを開始した製品&
サービスをデモ実演
および体験を通じて
全国のお客さまに紹
介しています。

創業90周年特集

バルカーグループ 90年間の歩み

「明るい未来への道を切り開きたい」。先人たちの価値創造と品質向上への熱い情熱を受け継ぎ、パイオニアとしての誇りを胸に歩み続けてきました。その歩みの一端をご紹介します。



1.創業時の社屋 2.研究風景 3.バルカーレビュー 4.ノンアスジョイントシート 5.プランケット賞 6.ISO9002認証取得工場 7.ISO14001・9001登録証 8.バルフロン®ライニングタンク 9.環境憲章



1.サイクルサッカー 2.MRTセンター 3.パイオニアたちの歩み 4.ダイキン工業との資本業務提携 5.龍騰研修 6.中国経済人物賞 7.メガソーラー 8.小中高校生ダンス大会 9.シートトレーニングセンター

1927年～ 創業～半導体分野へ進出

価値と品質を追求し続けた私たちの技術は、自動車および各種高速機械用ブレーキライニングの製造からはじまり、わが国で初めて合成ゴムパッキンおよびふっ素樹脂の製品化を実現。戦後の産業発展を後押ししました。当時、急速な発展を遂げていた半導体分野へも進出しました。

- 1927 大阪府に「日本ブレーキライニング製作所」を創立。
- 1929 ジョイントシートおよび各種パッキンの研究開始。
- 1932 「日本バルカー工業株式会社」へ変更。
- 1937 合成ゴムパッキンが国内初の製品化。朝日新聞社の航空機「神風号」に装備。
- 1952 ふっ素樹脂の加工技術研究が完了、国内初の製品化。「バルフロン®」発売。
- 1957 技術PR誌「バルカーレビュー」創刊。
- 1979 半導体製造用溶融ふっ素樹脂PFAのウエハキャリア・容器・治具類発売。

1982年～ 非石綿化を促進

シート製品事業において、社会的な課題であった非石綿化を促進。石綿規制の先を見越した体制の構築と、生産・販売拠点の拡大による海外進出を推進しました。また、名誉あるプランケット賞※を複数受賞。ふっ素樹脂製品をはじめとして、半導体分野への製品ラインアップも拡充しました。

- 1982 石綿を使用しないノンアスジョイントシート発売。
- 1985 「ノンアス®」として登録商標。
- 1993 「オールふっ素樹脂バーコード」が米国デュポン社よりプランケット賞受賞。
■ 奈良工場を新設。高機能ゴム製品の製造開始。
- 1995 ■ ISO9002の認証取得。
■ 「複写機ロール用PFAチューブ」が米国デュポン社よりプランケット賞受賞。
■ 「大容量現場施工タイプ・バルフロン®ライニングタンク」発売。

※1988年、米国デュポン社が創設。テフロン®を使用して社会や産業界に大きく貢献した新製品や新用途を開発した人・企業に贈られる。

1997年～ 環境・品質マネジメント システムの確立

ARMOR® シリーズの販売開始を契機に半導体製造装置用シート市場へ本格的に参入しました。また、環境および品質マネジメントシステムを確立。環境保全や安全・安心、法令順守に向けた取り組みを強化し、当社グループCSR活動の基盤づくりを行いました。

- 1997 大容量現場施工タイプ・バルフロン®ライニングタンクが米国デュポン社よりプランケット賞受賞。
- 1998 液晶・半導体装置向け高純度ふっ素ゴムシート「ARMOR® シリーズ」発売。
- 2000 ■ バルカーグループ企業理念「THE VALQUA WAY」制定。
■ ISO14001の認証取得。
- 2002 ■ 地球環境室設置、環境憲章制定。
■ 「電気二重層キャパシタ用電極膜」が米国デュポン社よりプランケット賞受賞。
■ ISO9001の認証取得。
- 2003 ■ コンプライアンスマニュアル制定。
■ 安全宣言・安全方針制定。

2004年～ サービス事業で 新たな価値を創出

2007年をCSR元年として、さまざまな社会的課題の解決に向けた取り組みを本格的に開始しました。また、中国をはじめとしてグローバルにサービス事業を展開。製品だけではなく、周辺技術にまで目を向けたサービスで新たな価値を創出しました。

- 2004 ■ 耐熱型ノンアス®シートガスケット「ブラックハイパー® GF300」発売。
■ サイクルサッカー振興支援。
- 2005 人材開発宣言策定。
- 2006 ■ ふっ素樹脂事業と人材育成の中心拠点として「M・R・Tセンター」開設。
■ 石綿含有製品の販売を中止。
■ 「バルカー感謝の日」として世界中のグループ会社によるボランティア活動開始。
- 2007 ■ 「中国人材開発センター」設立。
■ CSR元年。バルカーグループCSR活動キックオフ。
- 2008 キャリアリターン制度導入。
- 2009 グローバル人事制度導入。

- 2010 ■ 「THE VALQUA WAY」全社実践発表会を開催。
■ 社内教育用教材「パイオニアたちの歩み」の発刊。
■ ダイキン工業株式会社と中国におけるふっ素樹脂事業で資本・業務提携。
- 2011 ■ 龍騰研修スタート(中国)。
■ 「第8回中国経済人物賞」を瀧澤利一社長が受賞。
■ 「バルカーグループCSR報告書」発刊。
- 2013 LED照明事業、太陽光発電事業開始。
- 2014 ■ 製品検索ウェブサイトSQS開設。
■ シートトレーニングセンター開設。
■ 「現代ガスケット概論」刊行。
■ ボールルームダンス振興支援、小中高校生大会への支援開始。
- 2015 ■ パルカーカップ統一全日本ダンス選手権への支援開始。
- 2016 ■ H&S事業本部設置、サービス事業促進。
■ CSR調達方針制定。
■ 全日本ブラインドダンス選手権への支援開始。
- 2017 ■ 人権基本方針制定。
■ SHE(安全衛生環境)委員会発足。

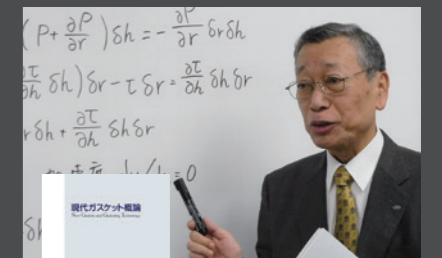
Gasketing Technology

西田隆仁が『ガスケット概論』に込めた想い

バルカーの製品は一般にはほとんどなじみがないと思います。結婚当初、妻に「どんな仕事？」と聞かれて困ったものです。あるとき、「電気屋に“冷蔵庫のガスケットを交換します”というパンフがあったよ！」と妻が言ってきました。「少し違う」とは思いましたが、私の仕事の一端に触れたことがうれしかったのでしょう。

技術的には地味であっても、バルカーの製品は戦後の復興を支え、ノンアス化にみられるような大きな環境対応にも貢献しています。ただ、ガスケットに関する書籍はほとんどなく、かつて社内で編纂された「ガスケット」が唯一の教科書でしたが、もはや技術指針となるものではありませんでした。また、従来のような技術伝承にも、さまざまな課題が指摘されていました。

そうしたとき、瀧澤社長からガスケットに関わる技術を体系的にまとめるよう促され、88周年を記念して上梓したものが『ガスケット概論』です。STCが創設され、締結などの技術継承の支援に国内外からも注目が集まっています。後生の人たちには、これからの時代にふさわしい、より充実した内容に改訂していただくことを期待しております。



シニアフェロー
西田 隆仁

76年大阪市立大院工学研究科修士修了、同年日本バルカー工業入社。92年技術本部第2研究室長、03年上海シート研究所長、05年基幹産業開発部長、06年執行役員、08年シニアフェロー。



世界で活躍するバルカー人たち

人材ダイバーシティの推進

中国で「龍騰研修」の事務局を経験し、生産性と歩留りを改善
タイ出向の3か月間で、タイバルカーの現場改善に貢献

中国総合研究所

徐春

入社11年目。中国龍騰研修事務局、タイバルカーの現場改善を経て、現在はシールトレーニングセンター(STC)窓口を担当。

心に刻まれた企業理念 「THE VALQUA WAY」の理解と実践

他社を数社経験したのち、バルカーに入社して11年目。入社時にほぼ何も知らなかった私ですが、今では確実に成長してきたことを実感しています。働く年月が長くなると、「バルカーパーソン」として会社を愛する感情とともに、会社に対する理解も深まっていくものです。

“バルカーパーソン”の心に根付いている企業理念「THE VALQUA WAY」を自分なりに絶え間なく実践してきたことは私の誇りです。この企業理念を瀧澤社長から直接伝えていただいたのは、およそ10年前のランチミーティングでした。あのときから、社長の「THE VALQUA WAYを示すだけでなく、絶え間なく実践していくことこそ大切」との

言葉が、いつも私の耳元に響いています。

この理念に基づいて実践していることのうち、とくに大切だと思うことが2つあります。1つ目は中国における当社の研修と教育の充実であり、2つ目は毎年グループ全社員で行っているボランティア活動や「ブラインドダンス」などのダンス支援活動です。これらCSRに根差した活動は、社会からも受け入れられ、私にとってもたいへん誇りに思える活動です。

1つ目の研修の充実についてお話しさせていただくと、バルカーには「国籍・性別・年齢にかかわらず、最大限の力を発揮し、成長できる環境」があります。これは「THE VALQUA WAY」の「チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり」という項目にも現れています。その実践例は、中国人管理職を対象とした「経営者研修」や、製造現場班長を対象とした「龍騰研修」などです。

私は会社からグローバル人材として認められ、母国、中国に限らず海外でもさまざまなチャンスを得ました。異なる環境で仕事をする機会をいただいたことで、私は大きな成長を実感しています。

強い意志と勇気をもって取り組んだ 中国「龍騰研修」の経験

ここで、2011年の9月から行われた「龍騰研修」の内容をご紹介します。研修の目的は、製造現場社員のスキルアップであり、抜本的に生産性を向上させることです。製造現場の中核を担う班長たちを対象に、日本生産性本部の先生が講師を担当。約40個のIE改善手法を学ぶとともに、現場で直接班長たちが指導を受けました。

この研修の発案者である瀧澤社長は、中国の人材開発センターを訪れて皆を激励。幸いなことに、「龍騰研修」の選任事務局に選ばれたのは私です。光栄であるとともに、「この活動を絶対に成功させなければ」という責任も感じました。

研修では、机上で学んだ手法がすぐに現場で使いこなせなかったり、現場社員が活動に反発したりと、さまざまなトラブルが起きました。ときに私はためらい、諦めそうになったこともあります。しかし、このような困難を乗り越えられたのは、社長の研修にける想いに感謝し、その情熱を思い返しなが強いこだわりをもって実践してきたためだと思います。

先生の指導、社長の訪問などにより、研修に対する理解を深めるだけでなく、製造現場社員とのコミュニケーション強化の必要性も感じ実践してきました。この研修が、研修生を通じて全社員に伝わり、その成長につながっていることを日々実感しています。



チャンスを生かして成長できた タイバルカーへの出向

こうして「龍騰研修」の選任事務局を経験した私は、2015年にグローバル人材として、新たなチャンスをいただきました。タイバルカーでの駐在員という、今まで学んだ知識や経験を異国で実践する絶好のチャンスです。新しいステージに向け、私はワクワクしながらタイへ飛びました。



さすがにタイバルカーの現場に入るまでは少し不安もありましたが、現場に入った瞬間、その心配は吹き飛びました。現場のさまざまな問題が見えて、その改善案もすぐに頭に浮かんできたからです。

例えば、あるプレス工程では数多くの金型が箱の中に乱雑に収められており、金型のリストも曖昧なものでした。そのため、金型を使うときに探す時間がかかり、見つからないことや、金型の具合が悪くて使えないこともありました。生産への影響は大きく、場合によっては納期の遅延につながる恐れもあります。

ここで、「龍騰研修」で学んだ知識が生かされました。まず、必要な金型のリストを作成し、次に金型を箱から取り出して口径順に並べて欠品を補充、そのうえで保有している金型の状況を確認しました。使えなければすぐに修正し、これを標準化して歯止めとしたのです。タイの現場社員たちと、改善の喜びを共有しながら理解を深め、現場が改善していく業務は楽しみでもありました。

現在、私は中国総合研究所のSTC(シールトレーニングセンター)の窓口を担当し、当社の目指すH(製品)&S(サービス)の一端を担う任務をいただき、新たなやりがいを感じています。振り返ってみると、さまざまな職場で知識や技術を得てきたことで、会社の成長とともに私自身も大きく成長できているのではないのでしょうか。

今後も、バルカーの成長に不可欠な存在でありたいと思います。





創業以来培ってきた独自の技術
社会へ、半導体業界へ貢献するバルカー製品

半導体業界への貢献

世界人口74億人のうち、およそ43億人が電子機器を利用しているといわれます。半導体産業は技術革新が速く、世界規模で発展を続けており、今後、電子機器を利用する人口の増加やIoTの普及により、生成される大量のデジタルデータの保管・分析のために利用される半導体の需要はますます高まっていくことが予想されます。

バルカーグループでは半導体産業の黎明期より長年にわたり製品・サービスを提供しており、現在も半導体工場のプラント設備、製造装置用部品、ウエハーリサイクルなどの分野でお客様のニーズに引き合い、チャレンジを続けています。

求められる性能に応える
バルカーの独自の技術

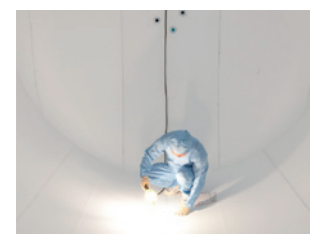
半導体製造プロセスではさまざまな化学薬品が使われているほか、プラズマによって電子回路の加工が行われている。

ます。近年加速する電子回路の微細化・高集積化により製造装置内の環境はますます厳しくなっていますが、半導体製造においてはゴミ・異物の発生は許されません。そのため、用いられる設備や部品には、薬品やプロセスガスに対する耐性である“耐薬品性”“耐プラズマ性”に加えて、それ自身が汚染源とならないための“純粋性”が求められます。

厳しい環境の中、バルカーは創業以来培ってきた技術により、こうした課題をクリアする製品を開発。製品の性能と信頼性は広く認められ、半導体業界で不可欠な存在となりました。2011年にはリサイクル事業に参入し、お客様のコスト低減と環境負荷低減にも貢献しています。

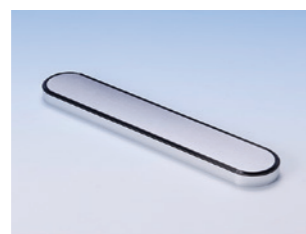
事業拡大への取り組み

当社グループは、韓国・台湾・中国の工場を増強し、アメリカにもライニングタンクを生産するバルカー-NGCが加わり、半導体業界向け製品の生産能力拡大を図っています。半導体業界の需要増を見据え、今後もバルカーならではの技術とモノづくりで半導体業界に貢献します。



施工技術
(ふっ素樹脂ライニングタンク)

独自の施工技術により、ライニング表面に施工傷の少ないクリーンな製品を提供しています。



設計技術
(ボンデッドゲートシール)

高機能エラストマーと金属を接着する優れた技術と最適なシール設計技術で長寿命化を図っています。



改質技術
(高機能エラストマー)

アーマーシリーズはゴム単体では発現しない新たな機能を改質技術によって付加しています。



研磨技術
(リサイクルウエハー)

他社に先駆けて事業化し培ってきた技術により、高精度かつ高潔なウエハーを提供しています。

製品の詳細はP7をご覧ください



シールエンジニアリングサービス
ベトナム教育機関との協働

世界の安全操業への寄与

近年、日本では技能継承やプラント設備の老朽化が問題視されており、メンテナンス技能の維持向上が課題となっています。また、新規設備や増設設備の計画が多い新興国などでも、シール材の選定不良や施工不良による漏えいトラブルが常態化しており、作業員の育成も急務です。

このようなニーズに応えるべく、さまざまなシール施工を学習する場を提供するため、カリキュラムの作成、専属トレーナーの育成、各カリキュラムに応じたハード面の整備に着手しました。

2015年にはグローバル展開の一環としてベトナムに「シールトレーニングセンター (STC)」を開設。シール施工のトレーニングサービスを展開することで、このトレーニングが広く認知され、ベトナム国最大の国営エネルギー企業ペトロベトナム傘下の技能教育機関ペトロベトナムマンパワートレーニングカレッジ(PVMTC)において、工業用シール材の取り扱いに関する技能訓練に、バルカーのトレーニングシステムが採用されました。

PVMTCでは、各種工業の現業部門において年間1万

5000人を超える研修生が学んでいます。今回のシール施工技能の訓練支援を通じて、ベトナム重化学工業の発展を後押しするとともに、当社ブランドのグローバルな普及拡大につなげ、世界各国のプラントの安全操業に貢献していきます。

Voice

バルカーとの協業による恩恵

日本のトップメーカーであるバルカーグループ様と協業できましたこと、誠に感謝しております。今までにないシールトレーニング(STC)により、ベトナム国内の各ユーザー様、これから社会に出る学生たちへの教育の幅が広がり、接点強化にもつながっていくと考えております。また、STCを通じてベトナム国内にあるプラントの環境・安全・衛生も向上していくと確信しております。



PVMTC 担当者 教育部 副部長
Dang Ngoc Anh 様 (ダン ノック アン)

受講者インタビュー

ベトナム国営ペトロベトナム化学肥料社 Phu My工場
メンテナンス部 Thang様(タン)

今回のSTCを受講し、自分の知識の無さを痛感しています。5年前の入社時に専門的な教育を受けておらず、上司・先輩によるOJTのみでしたので、新たな学びが多くありました。今回学んだこと(ボルト締結方法、ガスケット選定方法など)を現場で実践していきたいと思っています。



人権尊重／ダイバーシティ

多様な価値観・個性を尊重し、一人ひとりが輝ける環境へ

国籍・性別・年齢などにとらわれることなく、それぞれが最大限の力を発揮できる職場環境づくりと、ワークライフバランスの実現に努めています。

人権の尊重

グループ全社で人権問題への正しい理解のもと、「差別を許さず人権を尊重する企業体質づくり」を進めています。一人ひとりが安心して働ける環境をつくるため、国連「グローバル・コンパクト」なども踏まえ、2017年3月に「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。人権基本方針に基づき、引き続きダイバーシティの推進に取り組んでいきます。

職場環境づくり・各種制度

キャリアリターン制度（再復帰制度）

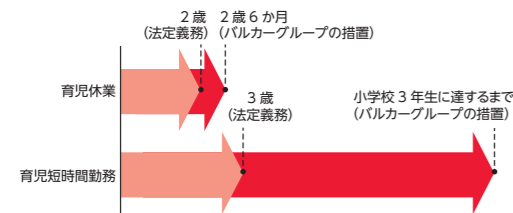
結婚・出産・育児・介護のみならず、海外留学や配偶者の転勤など、やむを得ない理由で退職した社員が、自らの経験や知識を再び生かせるよう、慣れ親しんだ職場環境で仕事に復帰できる制度を導入しています。

子育て・介護支援策の充実

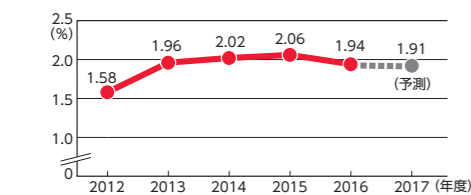
育児休業は法定義務を上回る「2歳6か月に達する日まで」、育児休業終了後の育児短時間勤務も法定義務を上回る「子どもが小学校3年生に達するまで」取得可能にして、育児世代のバックアップに力を入れています。

また、介護休業や介護短時間勤務の制度も導入。介護が長期になる場合はフレックスタイム勤務を活用した柔軟な働き方が可能で、やむを得ず退職する場合はキャリアリ

バルカーグループの育児休業・育児短時間勤務制度（法定義務との期間比較）



障がい者雇用率の推移



ターン制度を利用することができます。

今後も社員が仕事と育児・介護などを両立して能力を十分に発揮できる環境づくりを進めます。

障がい者雇用の促進

地域との共生を目指し、地元の支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

多様な価値を生み出す国籍を問わない採用

バルカーでは国籍を問わない採用を行っています。その結果、新卒採用者における外国籍社員の割合が高まっており、国籍はバラエティに富んでいます。言語や文化の垣根を越えて協働する中で、多くの社員が新たな刺激・価値観を得ています。

Voice

育児と仕事の両立

子どもが生まれたときは一人目、二人目ともに育児休暇を取得し、復職後も開発職として2年半働いております。妊娠中はもちろん、現在も家族や職場の方々を支えられ、仕事を継続することができています。時間に制約がある中で、思うように仕事が進まず悩むこともありますが、同じように子どもを持つ先輩社員に相談しながら日々奮闘中です。家族や上司、同僚の方々への感謝の気持ちを忘れず、今度は私自身が周りをサポートできるような人材となるべく努力してまいります。



研究開発本部
高橋 聡美

人材育成

グローバル化に向けた人材育成

企業価値を形成する最重要項目が「人材育成」と捉え、経営戦略として取り組んでいます。世界中の社員が、顧客や社会からの期待に応えるべく努力を続けています。

MY VALQUA WAY

グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を羅針盤にして、プロセスを大切にしながら日々の業務に取り組んでいます。

その実践内容を発表し共有する機会として、毎年、全世界の拠点から選ばれた代表者による「THE VALQUA WAY 実践発表会」を開催。企業理念の理解と浸透を図るとともに、グループ社員同士の交流を通じてグローバルならびにダイバーシティマインドの向上に取り組んでいます。

新入社員向け研修

現場の学びに重きを置いた OJT

入社後は社会人そしてバルカーパーソンとして必要な企業理念「THE VALQUA WAY」やビジネスマナーなどの基本的な知識を得たうえで、できるだけ早期に現場に配属してOJT教育を行うことを重視しています。

机上の理論ではなく現場での実践を通じて、モノづくりのDNAを肌で感じ、画一的ではない個々の強みや個性に応じた研修によって、「THE VALQUA WAY」に基づき「自ら考え、自ら行動し、完遂できる人材」を育成しています。

新入社員向け海外研修を実施

グローバル職として採用された新入社員は、早い段階で国際感覚を身につけるため、入社1年目から海外拠点に派遣されます。

派遣先のお客さまや市場などに触れ、現地社員とも交流を深めています。言語や文化、習慣の違いなどを学び、異文化への適応力や国際社会を生き抜く力を養っています。

海外人材来日トレーニング

中国、台湾、韓国、タイ、ベトナムなどのグループ海外拠点の幹部社員やスペシャリストを選抜して、必要なスキルと知識の習得ならびに自ら設定した課題に取り組む機会を提供しています。日本人社員とのディスカッションなどの場を設け、相互啓発を図るとともにグループ一体感の醸成とロイヤリティの向上につなげています。

海外拠点における人材育成

2007年にグループ内最大の生産拠点がある中国上海に中国人材開発センターを設立。中国での現地化を加速させるべく、現地特性に合わせた教育体制を構築しました。

現地拠点の経営を担える人材輩出に向けて「中国経営幹部研修」を実施し、「底上げ」に加えて「選抜」の両面からの人材育成に取り組んでいます。

社内語学講座

社内講師による中国語・韓国語の語学講座を、入門コースや資格取得コースなど受講者のレベルに合わせて開催。また、語学学習支援制度としてオンライン英会話などを設け、社員の語学力向上に取り組んでいます。

左・右) 来日トレーニングの様子



左) 中国経営幹部研修 右) 社内中国語講座

SHE委員会

SHE = Safety, Health, Environment

安全、健康、環境保全—全ての事業活動の重要課題であるこれらについて、管理の質的な向上、強化を図るため、「安全衛生推進委員会」と「環境委員会」を統合し、「SHE委員会」を立ち上げました。

SHE 推進体制

◆ SHE 委員会

SHE(安全、健康、環境保全)を一元的に管理するため、社長を委員長とし上席執行役員および委員長が任命する関連執行役員で構成。グループSHE委員会は年1回以上開催され、SHE活動の「年度方針」「活動計画」の審議・承認、「実行状況」の確認を行い、グループ内への展開を図っています。

◆ SHE チーム

海外は国単位、国内は事業所もしくは会社単位を基本とし、MDや事業所長を統括責任者とする「SHEチーム」を設置。グループSHE委員会で承認された「年度方針」「活動計画」をブレークダウンし、管理の実情、特有の事案、異なる

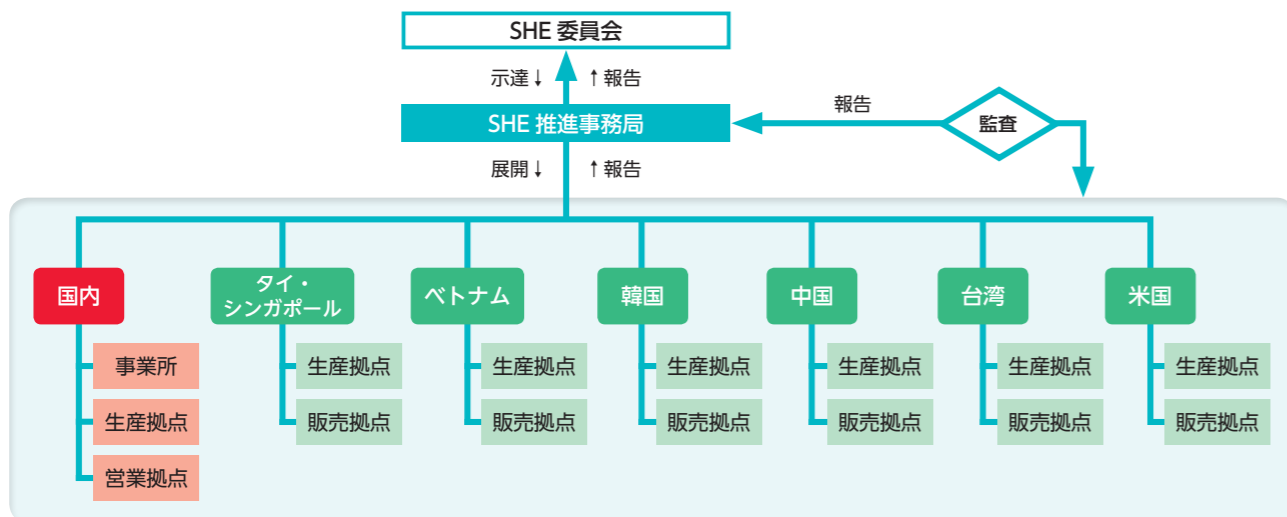
法規制や国民性を考慮した自チームの「年度方針」「活動計画」を立案し実行しています。

2017 年度方針

2016年度活動の総括と「THE VALQUA WAY」、2017年度Annual Policy、NV・S7経営基本方針、グループ安全衛生憲章、バルカー環境憲章をもとに、「SHEに関連する法令違反リスク」「移管・増産などの変化点における労働災害・環境汚染リスク」「従業員の心身の健康管理」を取り組むべき重点課題として抽出しました。

これに基づき2017年度の年度方針、基本施策を以下のように定め、推進体制に基づき活動計画を立案し実行しています。

年度方針	基本施策
法令遵守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅	法令、ルール遵守の実行と監視強化 実行部門の法令遵守レベル向上 外部監査による実行部門の改善スキル向上 内部監査（安全パトロールなど）の実行レベル向上
ルールと教育の徹底による変化（SHE）リスク排除	教育訓練による知識と実行力の向上 設備、作業のSHEリスクアセスメント実施と是正対策の徹底 変化点におけるリスクの洗い出しと対策 「安全衛生は全てに優先」の浸透強化 マネジメント体制の構築による役割の明確化、管理体制強化
心身の健康レベル向上	健診・ストレスチェックの結果活用によるフォロー 対策を要する個人や職場の見極めとフォロー 予防対策についての働きかけ



SHE基本方針

基本的な方針と今後の取り組み

「安全衛生は全てに優先」「環境にやさしいモノづくり」などの行動指針に基づき、安全衛生憲章、環境憲章を定め、安全で衛生的な操業を行うための取り組み、地球環境の保全を目指した環境活動を推進しています。

2017 年度施策（監視強化）

2017年度方針の基本施策「法令、ルール遵守の実行と監視強化」の手段の一つとして、国内外の生産関係会社に対して、外部専門家による現地監査を実施。現地リスクを把握するとともに、実行部門の改善スキル向上、内部監査の実行レベル向上につなげていきます。

今後の展開

SHE推進体制は、密接に関わりあう「安全衛生活動」と「環境活動」の管理を一元化するため、2017年度からスタートしました。情報を集約し、指示系統を一本化することで、より効果的で効率的な活動を目指しています。今後も、より実効性の高い活動へ改善するべく、グループ全社のSHE活動を強化し、SHEマネジメントシステムを整備していきます。

● バルカーグループ 安全衛生憲章 ●

バルカーグループは「安全衛生は全てに優先」することをグループ全員の共通認識とし、一人ひとりの自覚と責任の下、グループ一丸となって安全衛生活動に取り組む

● バルカーグループ 安全衛生方針 ●

安全衛生憲章に基づき次の方針を定め、現場においては、安全衛生活動を実践する

- 5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、大会を実施し、社員の安全衛生に対する意識の高揚および、無災害と心身の健康維持に向けての活動の起点とする
- グループの安全衛生に関わる管理体制の強化、維持向上を図る
- 安全衛生を確保するため、関係法令・社内の規則などを遵守するとともに、問題意識を持って迅速且つ的確な改善を行う
- 徹底した教育訓練のもと、安全衛生に関するリスクの低減に努める

Voice

現地監査の実施

社内だけで継続してきた安全衛生活動に加えて、外部専門家による監査を実施したことは、新たな視点で安全衛生活動に取り組むきっかけとなる貴重な機会でした。今回の監査で気づいたことや学んだことをさらなる活動の充実につなげ、よりいっそうの職場改善を図ります。



バルカーコリア MD ヤン・ヒョク

● バルカーグループ 環境理念 ●

バルカーは環境理念に基づき地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に努め、企業の成長および持続可能な社会の形成を目指します。

● バルカーグループ 環境方針 ●

環境理念に基づき、次の方針を定め、社員一人ひとりが良き地域市民としての行動をとり責任を果たしていきます。

- バルカーグループ全体の環境管理システムを構築し、維持向上に努め、運用を確実なものとする。
- 国内外の法律、規則、条約、協定、などを遵守するとともに自主基準を設け一層の環境保全に努める。
- 他産業および社会との連携を図り、環境に配慮した商品の創造およびサービスの提供に努める。
- 事業活動の全ての領域で、3R (Reduce, Reuse, Recycle) の強力推進をもって、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減および汚染リスクの回避に努める。
- 地域社会はもとより広く国際社会への環境情報を開示し、社会との連携と協力に努める。
- 環境教育を通して、バルカーグループ全構成員の環境憲章の理解と、環境に関する意識向上を図る。

安全衛生推進活動

災害ゼロと従業員の健康づくりを推進

SHE委員会発足により、従来から重点的に取り組んできた安全衛生推進活動もこの中に取り込み、引き続き災害ゼロを目指した活動と、従業員の心と体の健康づくりに努めます。

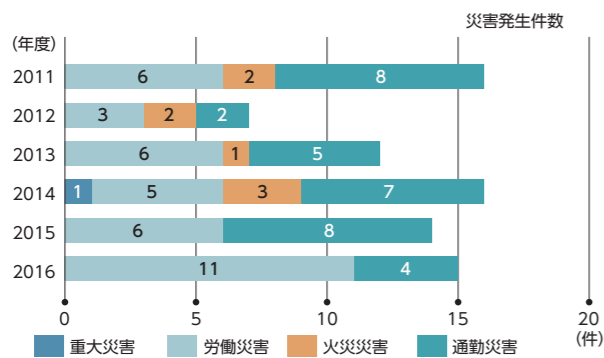
安全衛生推進活動

◆バルカーグループ安全衛生の日

5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生大会を開催しています。

◆積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国ごとに異なる法規制や国民性などに伴うリスクが顕在化。こうした国ごとに異なる法規制や国民性に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。また、健康経営の視点から従業員の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。



左) 上海バルカー 安全衛生大会 右) 奈良事業所 安全祈願

安全衛生管理者の教育と訓練

①法令順守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅

外部専門家による各工場への安全衛生監査を実施し、その指摘および指導の理解と実践により、危険箇所を事前に発見できるスキルの向上に向けた活動を推進しています。

②ルール化と教育の徹底によるリスク排除

設備、作業、化学物質などのリスクアセスメントを推進し、定常・非定常作業のみならず生産拠点の移管に伴うリスクの排除に努めています。

心と体の健康管理

①有機溶剤作業の使用低減

有機溶剤を使用しない衛生的な環境の実現に向け、従来有機溶剤の代替剤への切り替えを促進しています。

②ストレスチェック制度

メンタルヘルス不調を未然に防止するため、個人だけでなく、職場ごとに集団分析も実施しています。

③健康診断の実施

全従業員の健康診断受診率は2次検査も含め100%。希望者を対象に、産業医との健康相談を毎月実施しています。

④インフルエンザ対策

感染しても重篤化しないよう予防ワクチン接種を推奨し、感染時の対処方法や拡散防止策を周知徹底しています。

⑤禁煙活動

喫煙の有害性をポスターなどで周知し、喫煙室の利用制限や禁煙率を高める啓蒙活動を実施。煙草の代替になるようなガムやアメを入れたリフレッシュBOXを設置して禁煙率を高める試みも継続しています。

⑥運動習慣の推奨

1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上継続することで生活習慣病を予防し、健康な職場づくりを目指しています。

環境保全への取り組み

サプライチェーン全体で環境活動を推進

地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、環境負荷を低減するための活動に努めています。

環境リスクマネジメント

国内外生産関係会社ではISO14001システムによる環境活動を実施し、特に法令管理について運用レベル評価を実施。弱点を認識し、潜在リスクの顕在化とその予防処置を講ずることにより、未然に違反を防止する体制を強化しています。

2016年度は、重点的に有機溶剤に関わる法令(安衛法、有機則、女性則等)の遵法状況を確認しました。なお、悪臭や騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

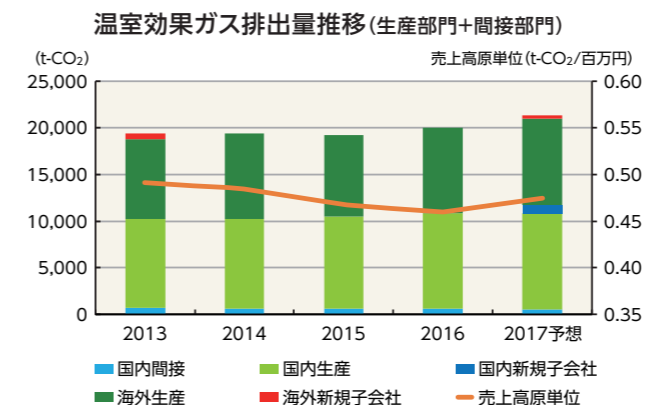
世界的にリスク管理強化が求められる製品含有化学物質については、社内規則・手順を制定し、法規制で定められた禁止物質などが混入しないよう管理を徹底しています。

2016年度事業活動に伴う環境負荷データ

INPUT		合計 142,970 GJ
エネルギー		
電力	31,658,050 kWh	
うち太陽光	51,532 kWh	
A重油	245.4 kℓ	
LPG	53,980 m ³	
天然ガス	88,679 kg	
都市ガス	42,385 m ³	
灯油	130.3 kℓ	
軽油	50.3 kℓ	
水の使用	合計 492,107 m ³	
上水	104,767 m ³	
工業用水 他	387,340 m ³	

OUTPUT		合計 20,019 t
CO ₂ 排出量		
生産関連	19,443 t	
その他	576 t	
廃棄物	合計 849 t	
廃プラスチック類	586 t	
汚泥	128 t	
紙くず	87 t	
他(廃酸、廃アルカリ、廃油、木くず、繊維くず、金属くず)	48 t	
うち化学物質* 21種類	39,878 kg	

*化学物質：PRTR法の届出対象物質と同様の海外法規制により管理している物質



主要な環境負荷の推移

温室効果ガス排出量・廃棄物最終処分量は、生産増の影響による増加を予測していましたが、それぞれ原単位で1%以上の改善を目標とし、合理化・原価低減活動を推進しました。

温室効果ガス (Scope1+2)

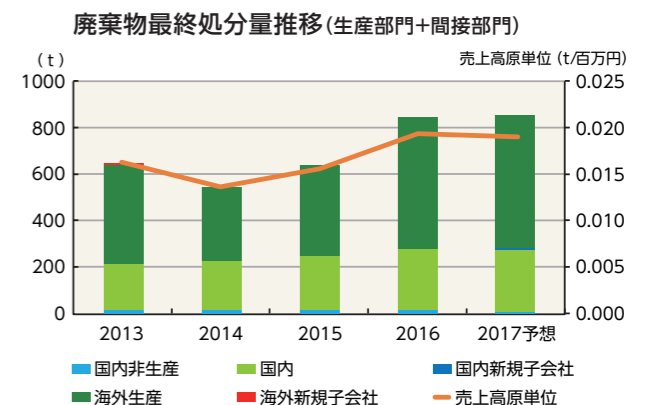
2016年度は2015年度に比べて絶対量で約1150tの排出量増加。内訳は生産増の影響で約1016t増加、電力排出係数変更の影響で約253t増加、その他特定できない要因で約405t増加し、合理化・原価低減活動による温調管理の見直しや老朽化設備の更新の効果で約525tの削減でした。売上高原単位で約2%削減となりました。

温室効果ガス (Scope3)

2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、3年目となりました。Scope3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

廃棄物

2016年度は2015年度に比べて絶対量で約184tの排出量増加。内訳は生産増の影響で約34t増加、合理化・原価低減活動による不良改善や歩留まり向上の効果で約25tの削減、2014年度から開始した生産拠点の最適、再配置による影響等で約175tの増加でした。売上高原単位では約20%増加しましたが、今後は安定稼働により収束すると考えています。



*温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。電力は、排出係数が明確でない海外拠点もあるため、一律に代替値を使用しています。(2013年度2014年度：0.000551 t-CO₂/kWh、2015年度：0.000579 t-CO₂/kWh、2016年度：0.000587 t-CO₂/kWh)

顧客満足への取り組み

安全で安心な製品・サービスを提供するために

4つの品質「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させるべく、さまざまな活動に取り組み、日々改善に努めています。

品質保証体制と方針

グローバルな体制の一環として、グループ全体を統括する「グループ品質保証委員会」を組織しています。国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発や人材開発など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに社員一人ひとりが具体的な目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。そのうえで、関連法規制を遵守、お客様の求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

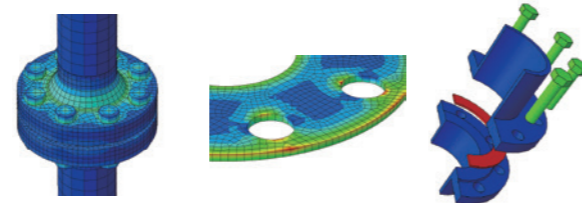
また、生産関係会社および製造委託協力会社に対する指導・監査の実施に加え、品質保証活動の監査を専門に行う品質監査室を設け、グループ全体の品質レベル向上に邁進しています。

評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、これまででは現実的に困難でした。こうした課題に対して、FEA(有限要素解析)を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで困難であった大口径装置、高温や高圧条件での検証が可能となり、漏えいや破壊などシール製品における不具合の原因究明や再発防止のための設計提案を行っています。今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安心・安全に貢献していきます。

三次元解析



Seal Quick Searcher シール製品検索ウェブサイト「Seal Quick Searcher」

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業分野などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。

※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページトップ画面よりご利用いただけます。

バルカーグループ 品質方針

「THE VALQUA WAY」に基づき、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させ、「顧客接点の品質」「製品の品質」を担保する。

4つの品質

- ① 製品とサービスの品質
- ② 製品とサービスをつくりだすプロセスの品質
- ③ 製品とサービスをつくりだす組織の品質
- ④ 組織を構成する人の品質

品質マネジメントシステム

生産関係会社およびグループ本体の営業部門を対象としたISO9001の認定を取得しています。また、生産関係会社の品質管理責任者は本社品質保証部の管轄とし、月単位あるいは週単位で各社品質活動の実行状況管理を行っています。

さらに現場では、定められた標準・基準に基づいた業務の確実性を担保するために、作業者自身による作業前の確認活動を実施し、不具合の発生を未然に防止。日常業務を一つひとつきちんと積み上げることによって、高品質を確保できるよう努めています。

サプライチェーンマネジメント

サプライチェーン全体でCSRを推進

サプライチェーン全体に参加する全ての企業が社会の要請に応えることで社会的責任を果たせるものと考え、パートナーであるサプライヤーとの連携を強化し、サプライチェーン全体でCSRを推進していきます。

CSR 調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。

企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

CSR 調達の推進

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2016年度は取引額の8割以上を占める主要な調達・購買先であるサプライヤーを対象にアンケートを実施しました。アンケートはCSR調達ガイドラインに沿った項目(9項目・20設問)とし、各サプライヤーにおける環境への配慮、法令遵守、人権尊重、安全衛生などの取り組み状況を確認しました。初めての試みでしたが、アンケートの回答率は100%を達成。CSRの重要性を共通認識とし、サプライヤーとの連携が強化されました。

実施したアンケートの回答をもとに点数化した結果、設定している目標値を上回っているサプライヤーは70%でした。調査結果は各サプライヤーへフィードバックすることで、情報共有を図るとともにさらなる活動の推進を要請しています。目標値を下回ったサプライヤーは改善指導対象とし、取引を継続していくために個別に教育資料を提供するなど、CSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働の取り組みを行っています。

今後、さらに活動を推進していくため、定期的なアンケートや個別の支援などを通じてサプライヤーにおけるCSR調達の定着を目指します。

CSR アンケート回答
目標 80点 ⇒ 実績 84点

バルカーグループ 調達基本方針

1. 法令・倫理の遵守
法令・社会規範を遵守し、健全で公正な企業活動を実践するとともに、サプライヤーに対し社会的責任を意識した行動を要請します
2. 公正な自由競争の原則
世界中のサプライヤーから優れた部材・サービスを最適な地域から公正な競争原理にて調達活動を行います
3. 環境保全に配慮した企業活動
製品に使用する資材について、地球環境に配慮した調達を積極的に行います
4. 人権への配慮
人権尊重を徹底した企業活動を実践します
5. 安全衛生
企業における潜在危険有害要因を未然に予知・対策することにより災害防止に努めるとともに、適切な健康管理を実施し、安心して働ける職場の安全衛生を維持向上させる活動を実践します

Voice

CSR 調達の実現のために

企業が社会的責任を果たすためには、当社グループだけの活動ではなく、サプライチェーン全体に関与する全ての企業において活動することが必要です。調達部門として、サプライヤーの皆さまに企業理念「THE VALQUA WAY」ならびに「調達基本方針」「CSR 調達ガイドライン」を十分に理解いただき、当社グループの活動に賛同し協力いただくことがCSR調達の実現には不可欠との認識を持って、日々の業務に取り組んでいます。



生産調達管理部 調達グループ グループリーダー 岡野 浩

ボランティア活動

グローバル社会の一員として、社会に、未来に貢献

世界中の各拠点で、地域に根ざした社会貢献活動を行っています。
社員一人ひとりが、バルカーを取り巻くたくさんの人々と共に考え、自ら進んで行動していくことを目指しています。

地域社会に対する感謝の日

世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのか。その答えの一つが、毎年秋の休日に行っている「地域社会に対する感謝の日」です。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場で、地域社会に根ざしたボランティア活動を実施。2016年度は世界38か所、総勢1,241人の社員と家族が参加して、海岸や道路清掃、花壇の花植え、養護施設支援のための募金活動などを行いました。

社会貢献団体の活動支援

そのままでは廃棄されるだけの古紙や古切手、ペットボトルキャップは、NPO法人へ寄付することで活動支援となります。ペットボトルのキャップは分別回収して、「NPO法人エコキャップ推進協会」へ寄付。また古切手を集めて福祉団体「国際協力NPOジョイセフ」や「誕生日ありがとう運動本部」へ寄付する活動を行っています。

一つひとつは小さな活動ですが、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを贈る活動や、生活支援へとつながる大切な活動と考えています。



左上) タイバルカー 障がい者施設慰問 左中) 台湾バルカー国際 左下) MRTセンター 右上) 本社 右中) バルカーコリア 右下) バルカーベトナム

スポーツ支援／活動の推進

社会貢献活動の仕組みづくり

バルカーグループは、長年にわたりCSR活動の柱の一つとして「スポーツ支援」を推進しています。
また、社員個々の自発的な社会貢献活動をサポートするためにポイント制度を導入しました。

「ボールルームダンス」の支援

バルカーグループは2014年から、生涯スポーツとして幅広い世代に支持され、また華やかな競技スポーツとして世界各国に多くのファンを持つボールルームダンスの振興支援に取り組んでいます。

すでに国内では、真の日本一を決定する最高峰のダンス競技会「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」、ジュニア・ユース世代の全国大会「小・中・高校生全日本チャンピオンシップ」、視覚障害者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」への支援を行っています。2017年からは、世界のトップ選手が一堂に会する「コリアオープン国際ダンススポーツ選手権」への協賛を開始しました。

今後も事業とともにCSR活動でもグローバル展開を行い、それぞれの国や地域における健全な社会の形成に貢献していきます。

CSR 活動の推進

◆ポイント制度の導入

積極的に社会貢献活動に参画する社員を支援し、モチベーションの維持・向上を図るために2016年から独自の「活動支援ポイント制度」をスタートしました。個人表彰および優秀事業所の表彰を行うことにより、社会貢献活動の活性化と底辺拡大につなげ、全員参画型のCSR活動を推進しています。

◆イベント運営を通じた社員教育

活動の一つである「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」には、100名近い役員・社員が主催組織と協働する形で大会運営に携わっています。これは企業理念「THE VALQUA WAY」を背景としたCSR活動の実践であると同時に、通常の業務とは全く違う世界での貴重な学びの場であり、このプロジェクトを通して社員のさらなるホスピタリティ精神の醸成を図っています。

Voice

コリアオープンとバルカー

最初、バルカー社はダンスとは関係がない会社だと考えておりました。しかし、「化学」は化学反応・融合を連想させ、ダンスの世界における男女のハーモニー・融合と似ています。バルカー社の支援は、コリアオープンで入賞したアジア選手の賞金として使われました。大会の賞金支援というのは、参加選手のモチベーションをアップさせるだけでなく、ダンサーがダンスレッスンに集中できる環境をつくるうえでも非常に意味のある支援だと思います。今後、「バルカーカップ」が韓国でも開催されることを期待し、コリアオープンもさらなる成長に向けて頑張ります。



KDC (韓国プロダンス評議会) Jay Park 会長
コリアオープンオーガナイザー



上) バルカーカップ
左中) 小・中・高校生全日本チャンピオンシップ
右中) コリアオープン
下) 全日本ブラインドダンス選手権

コーポレートガバナンス／CSR経営

グループ経営を監査役会、内部監査室がチェック

経営理念「正正堂堂」を基本姿勢とし、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を可能にする経営体制を構築。持続的な成長と企業価値の向上を目指し、最良のコーポレートガバナンスを追求しています。

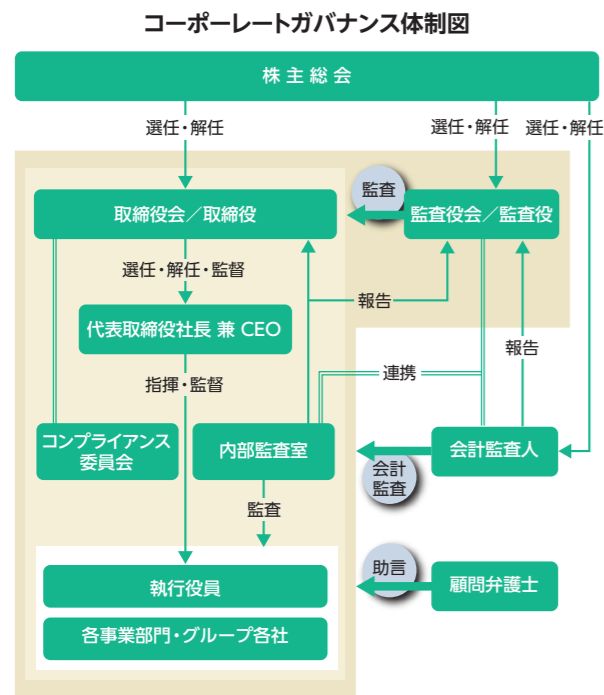
コーポレートガバナンス

◆取締役会

執行役員制度を導入し、取締役会と執行役員の役割を分離したグループ経営体制を確立しています。取締役会は、グループ全体の意思決定および監督機関です。執行役員は、取締役会が決定した経営方針・戦略にそって業務遂行の責任を負っています。なお、現取締役会は、取締役5名(内、社外取締役2名)によって構成されています。

◆監査役会

監査役は、取締役会、常務会、その他重要な会議に出席するほか、重要な決裁書類の閲覧などにより、取締役および執行役員の業務執行を監査し、経営に対する監視、監督機能を果たしています。また、監査役は、会計監査人および内部監査室と積極的に情報交換を行っており、それぞれの監査機能の実効性を高めています。なお、現監査役会は、常勤監査役1名、非常勤監査役2名(内、社外監査役2名)の3名で構成されています。



◆内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価、提言を行っています。

内部統制システム

業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備、推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境、内部環境の変化に応じて適宜見直しを行っています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規則や業務プロセスの整備、評価、改善を行っています。

2016年度においては、財務報告は有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を得たうえで開示しました。引き続き財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続します。

CSR経営

積極的かつ確実な実行を担保するため、CSRコンセプトに基づく活動をラインに取り込み、推進責任を明確化しています。また、CSR活動全体の整合性を確保し横展開を促進するため、「CSR協議会」を設け、グループ内の各組織が連携して活動テーマに取り組んでいます。



コンプライアンス／リスクマネジメント

一人ひとりのコンプライアンス意識向上

企業理念「THE VALQUA WAY」に基づく行動指針として「コンプライアンス遵守と誠実な行動」を定め、全グループ社員が常にこれに従って行動することを求めています。

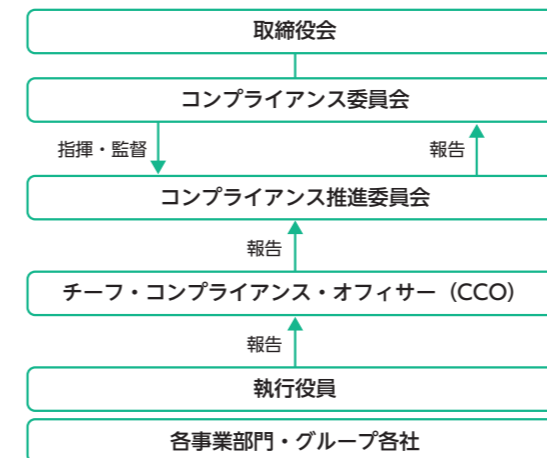
コンプライアンス

◆コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー (CCO)」を中心にグループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

◆報告・相談・通報ルート

社員が法令や社内規則違反などを報告・相談・通報できる仕組みとして、社外の弁護士に直接通報・相談できる通報制度と「企業倫理ホットライン」(外部委託機関が運営。日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語対応)を設けています。さらに、「意見箱」の設置や、経営トップ(CEO)と直接コミュニケーションできるツールとして「CEOダイレクトライン」を設置するなど、複数の報告・相談・通報ルートを設けています。これらの制度については、通常の指揮命令系統から独立して運営されており、情報が秘匿され、また報告・相談・通報したことによって社員に不利益が課せられることのないよう運用されています。



◆社員教育

法務部および外部講師によるコンプライアンスセミナーを、新人から管理職まで階層別に毎年実施し、海外展開の加速にあわせたグローバルなコンプライアンス教育にも力を入れています。

また、職場ごとにコンプライアンス推進責任者を任命しており、職場単位での自主的なコンプライアンス推進活動に取り組んでいます。

その他、コンプライアンスに関わる身近でタイムリーな話題を取り上げたリーガルニュースを毎月発行し、社員への啓発を図っています。

リスクマネジメント

「中国リスク管理委員会」の設置をはじめ、リスクの的確な把握と対処に努めています

事業活動を遂行するうえで生じうるリスクを的確に把握し、リスクの発生を低下させるとともに、発生した場合でもその損失を最小限に止め、事業の継続性・安定性を図るリスク管理体制を構築しています。

◆業務リスク管理体制

グループ全体でリスク管理体制の構築に努めており、リスクの顕在化を防止するとともに、万一リスクが顕在化した場合に損失を最小化するための施策を予め講じ、早期に復旧するための基本対応手順・対策・報告体制を整備しています。

◆中国リスク管理委員会

中国事業におけるリスクに特化した管理体制を構築するため「中国リスク管理委員会」を設け、中国特有の事業リスクを評価・分析し、重要なリスクについては必要な対策を施すなど、リスク低減に努めています。

日本バルカー工業株式会社

本社：〒141-6024
 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階
創業：昭和2年1月21日
設立：昭和7年4月8日
資本金：13,957百万円
上場証券取引所：東京証券取引所市場第一部
従業員数：427名(グループでは1,745名)(2017年9月30日現在)
事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高性能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売



**子どもたちの
 夢いっぱいの未来を大切にしたい。**
 その思いを込めて、グループ社員の子どもたちの
 笑顔を飾りました。



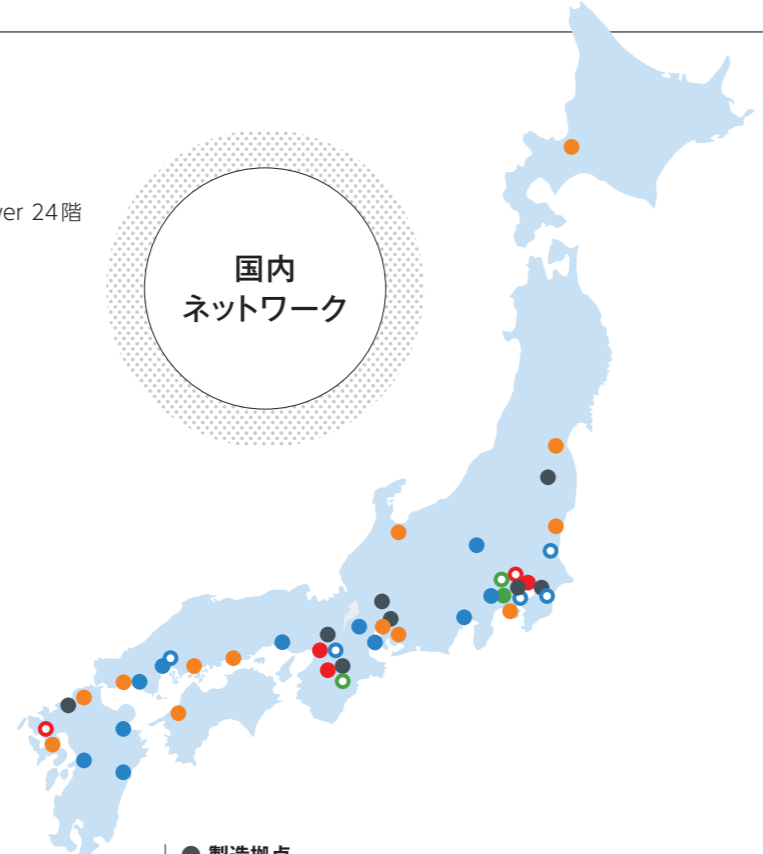
対象期間 2016年4月～2017年3月
 (報告の一部に2017年4月以降の活動と
 取り組み内容も含まれます)

対象範囲 日本バルカー工業株式会社および
 グループ会社

発行 2017年12月

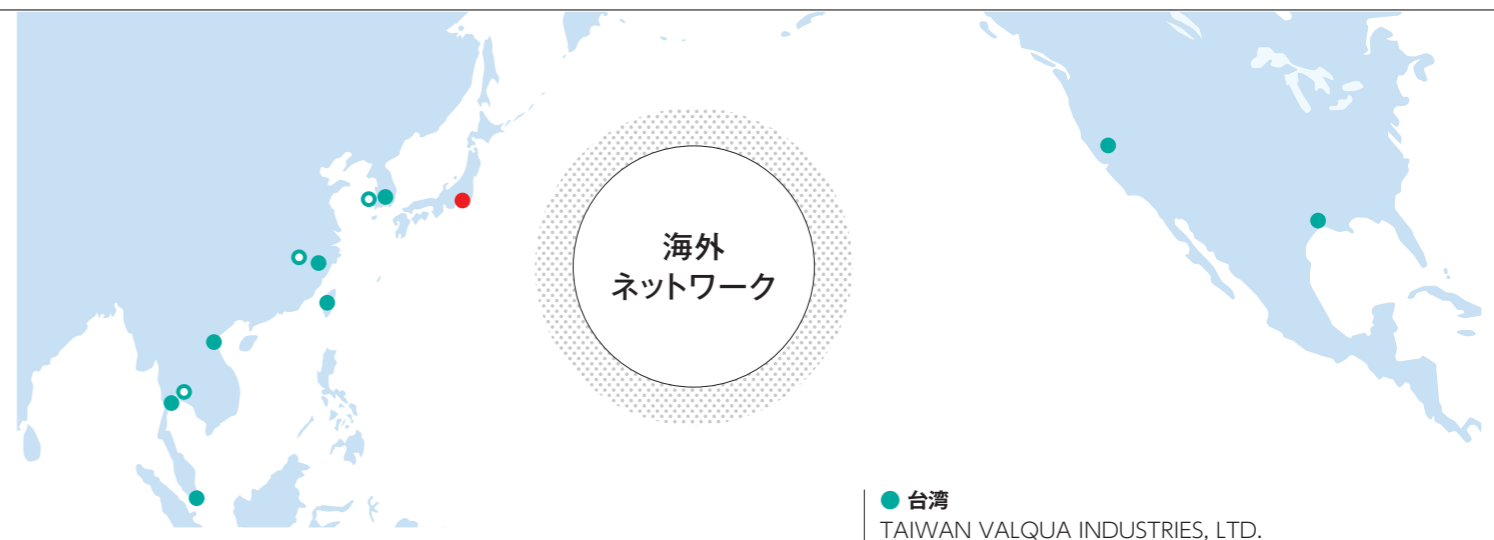
90th
 ANNIVERSARY
 SINCE 1927

- **本社(大崎事業所)**
 〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 24階
 TEL (03) 5434-7370 FAX (03) 5436-0560
- **事業所**
奈良事業所
 〒637-0014
 奈良県五條市住川町 テクノパーク・なら工業団地5-2
 TEL (0747) 26-3330 FAX (0747) 26-3340
- **製造・研究開発・人材開発**
M・R・Tセンター
 〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘2-2-2
 TEL (042) 798-6770 FAX (042) 798-1040
- **営業所**
 札幌営業所 仙台営業所 日立営業所 京浜営業所
 豊田営業所 名古屋営業所 大阪営業所 北陸営業所
 岡山営業所 彦根営業所 姫路営業所 中国営業所
 周南営業所 松山営業所 北九州営業所
 長崎営業所
- **駐在所**
 高崎/厚木/富士/四日市/堺/広島/宇部/
 大分/熊本/延岡
- **販売拠点**
 株式会社バルカーエスイーエス(千葉/茨城)
 株式会社バルカーテクノ(東京/大阪/広島)
 バルカー・ガーロック・ジャパン株式会社(東京)
 バルメイ株式会社(東京)



国内
ネットワーク

- **製造拠点**
 株式会社バルカー シール ソリューションズ(奈良)
 株式会社バルカーエラストマー(福島)
 九州バルカー株式会社(福岡/奈良)
 バルカー・イイダテクノロジー株式会社(東京/大阪/千葉/愛知)
- **販売・製造拠点**
 株式会社バルカー・エフエフティ(東京/長崎)
- **研究開発拠点**
 日本バルカー工業株式会社(東京/奈良)



海外
ネットワーク

- **中国**
 SHANGHAI VALQUA FLUOROCARBON PRODUCTS CO.,LTD.
 VALQUA SEAL PRODUCTS (SHANGHAI) CO., LTD.
 VALQUA (SHANGHAI) TRADING CO., LTD.
- **研究開発・人材開発拠点**
 VALQUA CHINA RESEARCH INSTITUTE
 CHINA HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT CENTER
 VALQUA KOREA APPLIED R&D INSTITUTE
- **韓国**
 VALQUA KOREA CO., LTD.
 HEAD OFFICE
 ULSAN OFFICE
 PYEONGTAEK FACTORY
- **アメリカ**
 VALQUA AMERICA, INC.
 VALQUA NGC, INC.
- **台湾**
 TAIWAN VALQUA INDUSTRIES, LTD.
 TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL, LTD.
 HEAD OFFICE
 HSINCHU OFFICE
 LUZHU FACTORY
- **タイ**
 VALQUA INDUSTRIES (THAILAND), LTD.
 HEAD OFFICE
 BANGPOO HEADQUARTERS
 RAYONG FACTORY
 BANGKOK BRANCH
- **アセアン調達センター**
 ASEAN PROCUREMENT CENTER
- **シンガポール**
 VALQUA INDUSTRIES (THAILAND), LTD.
 SINGAPORE BRANCH
- **ベトナム**
 VALQUA VIETNAM CO., LTD.
 HEAD OFFICE
 HAI DUONG FACTORY
 HANOI BRANCH